

6/19(水)

酒断つ勇氣後押し

欲求抑える新薬に保険適用

アルコール依存症の患者が、お酒を断つのを助ける新薬が国内で承認され、公的医療保険が使えるようになった。飲酒したいという欲求を抑える薬で、完全断酒率は5割弱と報告されている。専門医らは「薬はあくまで治療の補助で、中心は、断酒を動機づける心理、社会的な治療」と強調している。

24週間、5割弱に効果

5月8日夜、東京都立市の集会所で、女性の断酒会「ひまわりの会」の例会があった。断酒会は、アルコール依存症の患者が順番に経験や教訓を語り、支え合っていく自助グループだ。

「おかしくなり始めたのは9年前ぐらいかな」。こう語る代表の女性(46)は5年前から通う。原因は心のよどみだった祖母を病院で亡くした事だった。「なぜ、引き取らなかつたのかと自分を責め、お酒にはまっていた。3カ月の入院の後、地域の断酒会に参加した」。ここには安心感が

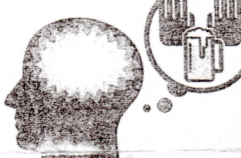
ある。どうしたのと言って

アルコール依存症の診断基準

- 過去1年以内に3項目以上が同時に1カ月以上続くか、繰り返し出る場合に疑いあり
- 飲酒への強い欲望や強迫感
 - 節酒ができない
 - 禁酒や減酒するとふるえや発汗などの離脱症状が出る
 - 酩酊(めいてい)効果を得るために飲酒量が増えているか、同じ量でも酔えない
 - 飲酒や回復に1日の大部分を費やす。飲酒以外の娯楽を無視
 - 精神的、身体的な問題が悪化しているが、断酒しない
- アルコール・薬物関連障害の診断・治療ガイドラインや厚生省資料などから

薬の違い

レグテクト



脳など中枢神経に作用して、飲酒をしたいという気持ちが抑えられる

- 成分に対して過敏症がある
- 重い腎障害がある

従来の抗酒薬



服用して飲酒すると、激しい吐き気などの不快感がある。この経験により飲酒を避けるように促す

- 重い心障害、肝障害、腎障害がある
- 重い呼吸器の病気がある
- アルコールを含む医薬品や化粧品、食品を使用中
- 妊婦や妊娠の可能性のある女性

The Asahi Shimbun

断酒を促すものだった。

日本で新たに保険が使えるようになった断酒補助剤、レグテクト(アカンブロサートカルシウム)は、お酒を飲みたいという欲求を抑える効果があると考えられている。脳内の興奮に関連する神経の働きを抑え、バランスを回復する作用がある。

1日3回食後に服薬し、

並行して「心の治療」

ただ、レグテクトも万能ではない。国立病院機構久里浜医療センター(神奈川県)

24週間続ける。重い腎障害や、薬の成分への過敏症がある人は使えない。アルコール依存症患者327人に対し行った臨床試験では、断酒の意志があり心理社会的治療を併用した患者に1日3回の服薬を24週間続けた結果、完全断酒率は47.2%で、比較のための偽薬の36.0%より明らかに高い効果があった。

など自助グループへの参加、家族教育も含まれる。最近では復職準備をするリワークプログラムや専門ケアを設ける病院も出てきた。飲酒による問題行動で壊れた家族関係を修復したり、復職をより円滑に行ったりするのが目的だ。

久里浜医療センターは昨年2月、原則3カ月のリワークプログラムを始めた。ミーティングやコミュニケーション学を学ぶ。

井之頭病院(東京都三鷹市)は昨年4月、3カ月の入院後に1年間通うアルコールリハビリプログラムを始めた。連続的な飲酒を防ぎ、生き方を改めて回復につなげるのが目的だ。アルコール症センター長の奈良圭之輔副院長は「断酒の3本柱は、専門医に診てもらつこと、抗酒薬の服用、自助グループに通うこと」と話している。(岩崎賢)

縁の下

縁は縁側で部屋の外側にある板敷きの部分。縁の下は柱のよこたえ、他人のために見えない所で努力や苦勞をすまう。

1218